



(株) 自然耕房あおき 代表取締役 青木美恵さんとスタッフ

CONTENTS

クローズアップ この経営者！	2 ページ
夫の遺志継ぎ有機野菜を直販	
— 仲間と一緒に年商3,000万円めざす —	
株式会社 自然耕房あおき(京丹後市)	
チャレンジ農業法人	4 ページ
親子二代、「亀岡牛」ブランドに賭ける	
— 共同事業会社の設立仲間と切磋琢磨 —	
有限会社 亀岡牛人見畜産(亀岡市)	
農業従事者社員研修	6 ページ
京都若手農業者大交流会2017	6 ページ

収入保険制度がスタートします	7 ページ
パソコン農業簿記講座・農業法人設立講座開催	
受講者を募集しています。	7 ページ
農業法人ニュース	8 ページ
— 京都府農業法人経営者会議の取り組み —	
■「雇用管理研修会」を開催	
■「第20回全国農業担い手サミット in こうち」	
■平成29年度全国優良経営体表彰(6次産業化部門)	
編集局から	8 ページ

クローズアップ

この経営者！

夫の遺志継ぎ 有機野菜を直販

——仲間と一緒に年商3,000万円めざす——



「一人では続けられなかった。皆がいたから…」青木美恵さん

京丹後市大宮町・株式会社自然耕房あおき

あおき みえ
青木 美恵さん(51)

女性ばかりのメンバー6名が、オーガニック（有機）農業で栽培した野菜を直販している「(株) 自然耕房あおき」代表取締役の青木美恵さんは地域の女性たちとともに、亡夫の志を受け継いで新たな道を歩み始めた。女性の視点に立ち、メンバーと協力し合いながら「豊かな食の大切さを伝えていきたい」というのが美恵さんの夢だ。

女性グループで経営継続

美恵さんの夫、伸一さんが脱サラして一家で大宮町に移り住み、新規就農したのは18年前。国営開発農地で、農薬や化学肥料を使わず草木や微生物の働きを生かしたオーガニック農業をめざし、「自然耕房あおき」を立ち上げた。



ボックス詰め作業と同封される料理レシピ

伸一さんは、同じ思いを共有する地域の農家で出荷組合を立ち上げ、自然とともに生きるライフスタイルを提案、全国から見学者が絶えなかった。ところが、経営も順調に推移していたなか、2015年11月に伸一さんが急逝。美恵さんは当初、彼が最後に作付けした野菜の収穫・出荷を終えたら農園をたたむ考えだったという。

しかし、地域の友人や長年の顧客の後押しもあり、「私一人では続けられないけど、みんなと一緒にならできるのでは」と農園継続を決意。夫の一周忌となる翌16年11月、これまでも農園を手伝ってくれていたIターン移住仲間など、40～60歳代の女性メンバー6人で「自然耕房あおき」を法人化し、チームとして経営に取り組んでいくことになった。

300品目に及ぶ野菜を栽培

ハウス6棟、パイプハウス2棟を含む約5haの圃場で、栽培している野菜は年間を通して250～300品目に



日々、話し合いを絶やさず、女性視点に立った商品が生み出される



(株)自然耕房あおきの設立メンバー
前列左から、青木美恵さん、廣野弘子さん、後列左から、兼頭みさ子さん、
宮本貴世さん、川口匡美さん、金久典子さん

も及ぶ。野菜を安定して年間出荷することを第一の目標に掲げ、メンバー全員で入念に栽培計画を立て、農作業にデスクワークにフル回転。

販売は、伸一さんのモットー「100軒の家庭へ」を引き継ぎ、季節の野菜が詰まった「おまかせ野菜セット」などを関西圏の消費者を中心に宅配（ネット通販会社経由・直販）している。また、珍しい品種やミニサイズなど創作和・洋料理店からの需要にも対応しており、顧客は家庭、業務用併せて200件に近い。

個人あてには料理レシピも添えているが、「お客さまから“スーパーでは購入できない野菜が入っていると、自分で料理方法や食べ方を調べたり、料理の楽しみが増えました”という声も寄せられます」と美恵さん。仲間と共に年商3,000万円を目指している。

ギフト、収穫体験、加工も

メンバーは美恵さんを中心に、助産師、保育士、フラワーコーディネーター、社会学者、フードアドバイザーなどの経験を持ち、さまざまな視点から知恵を出し合う。作付け、圃場管理、収穫、袋詰め、事務、営業など、一応の担当を決めているものの、お互いに情報共有、協力ができるように一緒に昼食や休憩をとり、話し合う機会をできるだけ設けるよう心がけている。

こうしたコミュニケーションの中から、これまでに料理レシピや写真付きの畑のたより、お花を盛り込んだギフト野菜、オーガニック野菜の収穫体験…など、女性ならではのアイデアから新たな商品、イベントも

誕生した。

さらに「心を込めてつくった野菜をムダにしたいくない」という気持ちから、このほどトマトジュースの委託加工にも着手。順次、他の野菜も加工してギフト商品のアイテムを増やしていく計画だという。

消費者とのつながりを大切に

これまで18年間、農園は地域に支えられながら、地域にしっかりと根を張ってきた。美恵さんは「地域の人たちとお客さまの支援、メンバーとの出会いは何か不思議なものに導かれているような、そんな気がする」としみじみ語る。

消費者との交流にも力を注いでいる。夏の恒例行事、パイプハウスの一角で開かれた「畑のレストラン」には今年も100人のお客さんが参加し、約50品目の野菜を使った料理がずらりと並んだ。

「オーガニック農産物の生産・販売だけでなく、先駆的な経営モデルとなれるよう頑張りたい」と美恵さん。それはメンバー共通の願いでもある。一層の活躍が期待される。



これからもおいしい野菜を届けたい

親子二代、 「亀岡牛」ブランドに賭ける — 共同事業会社の設立仲間と切磋琢磨 —



「亀岡牛」ブランドを支える亀岡牛生産（株）のメンバー

有限会社 亀岡牛人見畜産

亀岡市

- 代表取締役 人見 武瑠
取締役 人見 政章・亀岡牛生産（株）代表取締役
- 設立年月 2000年8月
- 労働力 家族3名
- 事業内容 「亀岡牛の肥育経営」飼養頭数 270頭 水田 0.9ha

黒毛和牛270頭を肥育

鹿児島県出身の人見政章さん（55）は結婚後、亀岡市内にある奥さんの康子さん（59）の実家が営む肉用牛「亀岡牛」肥育の世界へ。就農前は農協に勤務し、畜産経営の実情や経済性について理解していたことから、就農3年目には経営を任された。

政章さんは義父と一緒に作業をしながら技術を体得、就農当時（1986年）は120頭だった飼養頭数は、府の事業なども活用して180頭へと拡大。堅実に経営基盤を固め、2000年に（有）亀岡牛人見畜産を設立。長男の武瑠さん（30）が府立農業大学校に進学したのを機に将来を見越



親子二代、政章さん（左）と武瑠さん（右）

して250頭規模に増やした。

「亀岡牛」は地域ブランドの黒毛和種で、亀岡市内で14カ月以上肥育し、市食肉センターでと畜した牛をいう。

生産履歴は個体識別番号で確認することができる。生産者の顔が見える安心・安全が亀岡牛の強みだ。

現在270頭を肥育しているが、近年は購入する子牛(素牛) 価格が高騰し、「子牛価格と販売価格の相場リスクがあり、増産より利益率を高めていく経営を重視している」と政章さん。親子二代で日々、牛と向き合い、一頭一頭を手塩にかけて育てている。

「全国の銘柄牛にも負けない」

息子の武瑠さんは府立農業大学校を卒業後、宮崎県や鹿児島県の大規模農家で2年間研修を積んだ後、実家に就農。研修時代は「機械化を進めて効率的な経営を常に追求することと、牛と常に向き合うことの大事さについてトコトン鍛えられた」と振り返る。

亀岡牛は、通常の牛肉よりも肥育期間が2カ月～半年ほど長く、その分、成熟して肉の風味や脂のツヤを引き出している。政章さんが長年かけて導き出した独自配合の飼料と、武瑠さんが研修で学んだ肥育方法を両輪に18～25カ月程度肥育しており、「松阪牛や近江牛など名だたる銘柄牛にも負けない。日本でも5本の指に入るのでは」というのが2人の自負心だ。



一頭一頭、丁寧な飼養管理に力を注ぐ

カギは素牛の「目利き力」

亀岡牛は、現在7戸の肥育農家が1,500頭を肥育しているが、全員が亀岡牛生産(株)の社員でもある。もともと旧JA亀岡市の預託牛部会員で、JA合併や生産農家が減少していくなか、預託制度から自己所有牛に経営転換することで経営の安定化をめざし、2007年、まだ全国的にも稀だった家畜を動産担保として、共同で金融機関から資金を借り入れて新たなスタートを切り、政章さんが代表取締役となった。以来、肉質向上にむ



消費者に好まれる和牛づくりをめざす

けての勉強会や配合飼料の研究を重ねている。なかでも人見畜産を含む4農家は肉質を競うライバルで、経営の先行きを共にする仲間でもある。

肉質を左右する素牛は、鹿児島県や宮崎県など全国の子牛市場からメンバー農家の希望や技術に合致する血統の子牛を、同社の担当者が選定しており、この信頼関係はJA預託牛時代から変わらない。政章さんは「亀岡牛として出荷している以上、品質を安定させなければいけない。それだけに素牛の目利きができる人材の確保がポイントになる」と説く。

次世代へ持続、発展を託す

年間を通して労働力は、政章さん・康子さん夫婦、武瑠さんの家族3人のみ。牛の飼養管理は主に武瑠さんが担っているが、武瑠さんが経営継承する日も間近い。

また、二男は精肉・卸に就職し、兄弟そろって牛肉にかかわる仕事に就いた。政章さんは「自分が培ってきた知識や技術を駆使した肥育方法はある程度確立できた。ただ、それはベストではなくベターだと考え、日々の労働を上手に配分し休日も確保するなど、綿密に戦略を練ってほしい」と注文をつける。「まだまだこれから…」という評定だが、むろん若い世代に希望を託しての話である。



200頭以上を飼養する亀岡牛生産(株)の大規模農家
左から、人見武瑠さん、人見政章さん、(有)八木畜産・八木春樹さん、
(農)南桑営農組合・西川貴大さん、(有)原田牧場・原田雅之さん

● 京都農人材育成センター事業 経営研修 ●

法人で必要とされるスキルを学ぶ「社員づくり」を支援

農業従事者社員研修

京都農人材育成センターでは、「農業従事者社員研修」の受講生を募集します。

研修対象 ▶ 農業法人に勤める社員 各募集人数20名 ※社内研修の位置づけとして受講

研修内容 ▶ ①社会人マナー研修……………（業務上必要とされるマナーや基礎知識を習得）
②コミュニケーション研修……………（コミュニケーションの意義や、傾聴力・質問力を養う）
③マインドセット・キャリア設定研修…（現在の自身の役割を理解し、目標を設定する）

日 時 ▶ ①平成29年12月20日（水）、②平成30年1月19日（金）、③平成30年2月6日（火）
※いずれも10：00～17：00

場 所 ▶ 久御山町役場 5F コンベンションホール（51会議室）

受講料 ▶ 5,000円

【お申込み】 京都農人材育成センター（京都府農林水産部経営支援・担い手育成課）

TEL：075-414-4914 Email：jinzaicenter@agr-k.or.jp

語り合い仲間をつくる 京都若手農業者大交流会2017

昨年度好評を得ました若手農業者同士の大交流会を、今年も開催いたします。

先輩農業者の講演や交流会を通して「人」と「人」とが繋がるイベントです。

今回もFM京都の人気DJ谷口キヨコさん、佐藤弘樹さんを迎え、明日に繋がる交流会を開催いたします。

研修対象 ▶ 就農・就業後5年未満の若手農業者など

研修内容 ▶ 講演・交流会

日 時 ▶ 平成29年12月21日（木） 13：30～17：00

場 所 ▶ ガレリアかめおか 2階 大広間（京都府亀岡市余部町宝久保1-1）

参加料 ▶ 500円（飲食代）

【お申込み】 京都農人材育成センター（京都府農林水産部経営支援・担い手育成課）

TEL：075-414-4914 Email：jinzaicenter@agr-k.or.jp

収入保険制度がスタートします

農業経営者ごとの収入全体を対象とした総合的なセーフティネットとして、収入保険制度が導入されます。

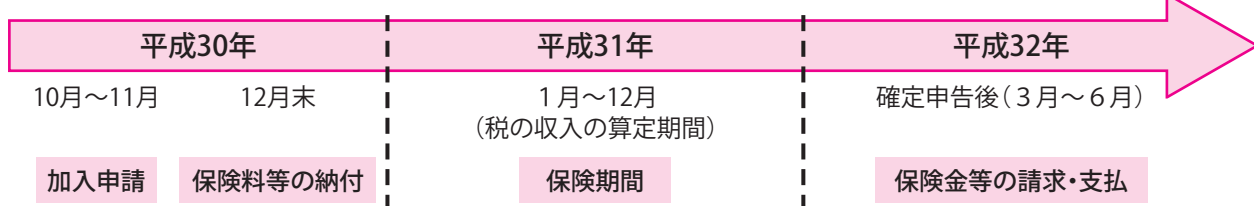
加入対象者：農業者なら個人、法人を問わず加入できますが、青色申告（簡易な方法を含む）を行っている農業者に限られます。

補填内容：5年間の平均収入を基準収入とし、当年の収入が基準収入の9割を下回った場合に、下回った額の9割（支払率）の補填金を支払います。

過去5年間納税の青色申告の実績がない農業者の補填限度額は一定程度下がります。

収入保険制度は、平成31年1月1日から開始され、加入申請は、平成30年の秋からはじまります。

加入・支払等手続きのスケジュール（平成30年秋の加入申請開始を想定）



(注)個人の場合のイメージ

加入条件や補填内容など詳しいことは、京都府農業共済組合の各支所にお問い合わせください。

お問い合わせはこちらまで ▶ 山城支所 TEL.0774-62-8611 京都支所 TEL.0771-63-2951 中丹支所 TEL.0773-42-8800
丹後支所 TEL.0772-62-6521 本所 TEL.075-222-5700

パソコン農業簿記講座・農業法人設立講座開催

受講者を募集しています。

パソコン農業簿記講座

収入保険制度への対応を含めて、農業経営者を対象にパソコン農業簿記講座を開催します。

【北部会場】12月5日(火)・6日(水) 京都府立農業大学校

【中部会場】12月12日(火)・13日(水) 南丹市国際交流会館

【南部会場】12月19日(火)・20日(水) 京都府田辺総合庁舎

*パソコン(OS:Windows7以降、CD-ROMドライブ必須)持ち込み可能で、ワープロソフトが使える方。

*各会場とも、定員20名(先着順)です。受講を希望される場合は、市町村の農林担当課を通じて11月17日(金)までに申し込んでください。

参加申し込みが遅れてしまった方は、申込期日以降は直接、(一社)京都府農業会議 担い手育成課(TEL:075-441-3660)までお問い合わせください。



農業法人設立講座

農業経営の法人化を目指す団体・個人の皆さんを対象に、農業法人の設立講座を開催します。

【南部会場】1月15日(月)・16日(火) 京都府田辺総合庁舎

【中部会場】1月24日(水)・25日(木) 南丹市国際交流会館

*受講を希望される場合は、市町村の農林担当課を通じて12月27日(水)までに申し込んでください。



農業法人

ニュース

— 京都府農業法人経営者会議の取り組み —

■「雇用管理研修会」を開催

9月29日、京都府農業会議と京都府農業法人経営者会議の主催により「雇用管理研修会」を開催し、「農の雇用事業」を活用して農業人材育成に取り組んでいる経営者ら約30名が参加しました。



平成20年度にスタートした「農の雇用事業」では、これまでに約450名の研修生が府内の農業法人等に就業されていますが、途中で様々な理由によりリタイアされる方が多くおられます。

そこで、農業法人等における、新規就農・就業者の農業への定着率の向上に向け、経営者の雇用管理能力の向上を図るため開催しました。

当日は、(株)オーレンスパートナーズの赤石哲朗氏と、こと京都(株)の山田敏之代表取締役から「経営主の雇用管理」と題して講演、その後、「定着率の向上、雇用管理者力の向上」等意見交換が行われました。

次回の「雇用管理研修会」は12月8日(金)午後2時からサンプラザ万助(福知山市)で開催します。

■「第20回全国農業担い手サミット in こうち」



県立春野総合運動公園体育館

全国の認定農業者や集落営農組織関係者、女性農業者などの担い手が一堂に会する「担い手サミット」が、10月24日から25日の2日間、高

知県で開催され、約1,800人が参加されました。24日、県立春野総合運動公園体育館で開催された。

24日の全体会では、全国優良経営体表彰の農林水産大臣賞受賞者の表彰式、高知県内の若手農業者・農業大学校生による担い手メッセージと県内4地域で活躍する農業者によるパネルトークが開催されました。全体会終了後は県内10地区に移動、各地の担い手農業者との情報交流会が開催され、翌25日には39コースに分かれ、先進的な経営や特色ある取り組みを視察する現地研修会が行われました。

■平成29年度全国優良経営体表彰(6次産業化部門) 農林水産大臣賞受賞：こと京都(株)



磯崎農林水産副大臣から表彰を受ける
こと京都(株)山田敏之社長

全国優良経営体表彰の6次産業化部門で、京都府から京都府農業法人経営者会議会員こと京都(株)が農林水産大臣賞を受賞され、24日の全体

会で皇太子同妃両殿下御臨席の下、磯崎農林水産副大臣から表彰状が授与されました。

食品産業や他の農業者などと緊密に連携し、農業生産と一体となった6次産業に取り組み、販売管理と作業管理を標準化するシステムを構築。栽培・作業履歴から出荷調整まで、独自の品質管理と意欲的な販売拡大に取り組み、研修終了後、就農・独立支援する研修制度の実施など若手農業者の育成への貢献等が評価されました。

編集局から

- ◆今回の取材は、雨にふられてばかりでした。取材をお願いした方々には大変ご迷惑をお掛けしました。
- ◆(株)自然耕房あおきは、気のあった女性6人で有機自然農法を実践。女性ならではの発想と細やかな気遣いで生産から販売までを行っておられます。法人化して1年目。これからの彼女達の活躍に期待します。

- ◆亀岡牛は数少ない農家により、若い後継者世代が自然豊かな亀岡で丁寧に肥育されていました。
- ◆こと京都(株)の平成29年度全国優良経営体表彰(6次産業化部門)農林水産大臣賞受賞おめでとうございます。今後とも若手農業者の独立支援に、ご尽力をお願いします。
- ◆今回の台風により被災を受けられた方々の一日も早い復旧をお祈りします。

発行/2017年11月

発行者 (一社) 京都府農業会議(京都府担い手育成総合支援協議会事務局)

〒602-8054 京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2 京都府庁西別館内 TEL.075(441)3660(代)